

親切だより

<https://shinsetsu-kai.jp>

7 月号 No. 637
2025年7月1日発行

■発行／一般社団法人 親切会 本部
〒101-0032
東京都千代田区岩本町2-9-6
ゆいまーるひたち4F
■編集兼発行人／米山貴章
■印刷／株式会社日立ドキュメントソリューションズ

題名（無題-最後の作品）、作者（南 栄一氏）

「口と足で描く芸術家協会」は、1956年創設以来、「Self Help Not Charity」慈善ではなく自立」をモットーに世界中の障がい者の皆様の支援しています。親切会は2001年以降四半世紀にわたり、この会を支援しています。親切会HPには他の作品も掲載していますので、ぜひ、ご覧下さい。



制作中の作者（口で描いた）



ダイバーシティと親切

(株)日立製作所関西支社 支社長

堀内 浩祐



2025年4月13日 大阪・関西万博が華々しく開幕しました。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして、国内外から180を超えるパビリオンが展示されています。

開催を心配するような報道もありましたが、一度行ってみると国によって特色のあるパビリオンがとても魅力的で、開場の雰囲気もとてもワクワクするものです。パビリオンだけでなく、来場するのも海外からの方含め多様です。

1970年に開催された万博も多くの海外からの来場者があつたようですが、当時は外国人を見ることが自体、生まれて初めてという日本人が多かったと聞いたことがあります。その時からすると、ダイバーシティが進んだなと思います。

さて、ダイバーシティという考え方ができたのは、1960年代のアメリカで行われたアフリカ系アメリカ人による公民権運動がきっかけで、時を経て80年代のアメリカ、2000年代に入ってから日本では企業の人財戦略として重要視されるようになりました。

ダイバーシティ経営の推進は、従業員や取引先などのステークホルダーの方々の年齢、性別、セクシャリティ、家族構成、障がい、人権、国籍、民族、宗教といった違い（多様性）を認め、歓迎し、それぞれが心理的に安全な状態で、個性や能力を十分に発揮できるようにするというものです。

こうして文章にすると、何かとても難しいものにも思えてきます。

しかし、今まで自分が大事にしてきたことを振り

返ると、ダイバーシティは「親切」という心や行動のありようと同じだということに気づきます。

「親切」という言葉は、「親」と「切」という二つの漢字から成り立っています。「親」は親しい関係を意味し、「切」は「心を込めて行動する」ことを示しています。つまり、親切とは、他人に対して親しみをもち、心を込めて接することを意味します。

例えば、電車の中で席を譲る行為や、道に迷った人に道案内をすることなど、日常のちょっとしたできごとが挙げられます。相手のことを思いやり、また相手の立場に立って考えることが大事です。また、仕事においては「意見の違いがあれば率直に意見をぶつけあい、それで決まったことには一丸となって取り組む」ということを大事にしています。これは「多様性、違いを認め歓迎する」といわばダイバーシティそのものですね。

「時代が変わっても大事なことは変わらない」と改めて思うと同時に、近年のグローバル化の急激な進展やリモートワークのような多様な働き方の登場など、「多様性」については数年から10年くらいの間に劇的に変化してきました。

このような時代の変化をしっかりとらえつつも、「親切」という心や行動を大切にしたい。万博の盛況ぶりをみながら改めて心に強く思いを持ちました。

今回の親切だよりは、支部特集として、関西支部と九州支部を取り上げました。

また、今回、親切会の過去を知る上で関わり合いのある3人の馬場さんを掲載しました。その中でも第4代会長馬場兵吉氏は、(株)日立製作所時代に大阪と九州の営業所長を務めていたこともあるなど当初より親切会とは関わりの深い方と言ってもよいでしょう。

浪速のシンボル通天閣

親切会関西支部 支部長

朝野 順男



大阪のシンボルといえば、通天閣です。大阪城ではありません。浪速区の新世界町に建っています。

さて映画でも、テレビドラマでも舞台が東京から、あるいは博多から大阪へ変わったとなれば、それを観客、視聴者に分かってもらうために、場面に必ずと言っていいほど通天閣が映しだされます。カラオケのバックにも大阪に関する唄であれば通天閣が映しだされています。そして日立のネオン広告が鮮やかに目にとまります。

驚くことに日立と通天閣は1956年から現在まで約70年のお付き合いです。

その関係は、通天閣の運営は通天閣観光(株)、日立は通天閣へネオン広告を掲載し相応の広告掲載料を支払うという関係です。唄に出てくるいわゆる「通天閣の灯」は日立の広告ネオンの灯なのです。

ところで大阪人の大半は通天閣を日

立の所有物と誤解していますが、通天閣観光(株)の所有物です。

そして現在の通天閣は実は二代目であることを知っている人は皆無と言えるでしょう。初代は1912年に大火災に遭い、その後解体されて鉄材として軍に提供されました。

難波のシンボル、いや大阪のシンボルである通天閣の灯りが消えたその日から、新世界の商店街の人たちをはじめ大阪人は大変落ち込んだようです。

一日も早く通天閣の再建なくして、新世界なし、ということでは商店街の役員の皆さんが再建プロジェクトを立ち上げました。

問題は再建費用です。商店街の人たちに株券を売り、再建費用に充てようとしたのですが、当時(1956年)の費用で3億4000万円もかかることが分かり、ほぼ諦めかけていたところ、広告料10年間前払い(再建費用相当)

をしてくれる企業を捜そう、通天閣の灯を灯してくれる企業が絶対あるはずや、ということでは関西地区の大手企業に、役員さんたちが靴底を減らしてお願いに駆け回りましたが、当時、経営基盤が脆弱だった通天閣観光(株)の申し出に理解を示す企業はいませんでした。そこに救世主が現れました。日立です。当時の大阪営業所(現関西支社)に通天閣再建、街造りに協力してほしいとの依頼が通天閣観光(株)側からありました。

関西支社はこの依頼に応えるべく動きだしました。本社に掛け合いました。役員会議で承認してもらわなければな

りません。なにせ当時の3億4000万円は重た過ぎます。相手は経営基盤の脆弱な通天閣観光(株)です。万が一倒産でもされたら3億4000万円は水の泡です。誰が責任をとるのか、という話になって当然です。しかしながら当時の本社幹部は審議に審議を重ね、GOサインをだしてくれました。

日立が、関西支社が通天閣の危機を救い、街造りに一役かった次第であります。

日立グループは、今日現在も親切会活動を通して、優しい親切な人作り、街造りに取り組んでいます。



コーチングの勧め

(株)日立製作所 九州支部 支社長

山本 真司



本年4月に(株)日立製作所九州支社長に就任いたしました。また、この度、5月7日に日立九州ビル(百道)からONEFUKUOKABLDG.(天神)に事務所を移転し営業を開始し、グループ会社の皆さんとともに新しいワークスタイルにチャレンジしております。

さて、今回お話ししたいテーマは「コーチング」です。ハラスメントへの意識の高まりや流動化する人的資本のため、最近のマネージメントが変わってきていることはご存じの通りです。私には高校3年生の息子がおり、部活で野球をやっています。その環境は私の頃とは隔世の感があります。まず親御さんや祖父母の方までが練習試合に駆け付けて、揃いのユニフォームで応援します。試合会場までの送り迎えはもちろん、場合によっては部活以外のトレーニングにも付き合います。要は子どもが育つ方が変わってきたのであり、そのような環境で育ったメンバーには会社でのマネージメントも変える必要があるわけです。

に接し伴走していくものです。昔のスポーツのコーチはその効用も言わずに延々と走らせたりしましたが、今のコーチは科学的効用、実績やデータをもつて選手に接し、選手が納得のうえでトレーニングを行います。昔の職場では「四の五の言わずにとつとやれ!」という言葉がよく聞かれましたが、今の部下には通用しないのは言うまでもありません。私はメンバーに対して30分/月のコーチングを行います。詳細の内容は割愛しますが、最初は少し時間がかかりますが、徐々にメンバーは自ら考えアクションを行うようになります。大谷翔平選手はコーチにデータやアドバイスを聞くがトレーニングメニューは自らが決めて実行すると聞きます。世の中にはコーチングに関する書籍がたくさんありますので、ご興味があれば一度お手に取っていただき、皆様のマネージメントの参考にされたいと存じます。

日頃は親切会へのご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

親切会九州支部は1982年(昭57)、当時の日立冷熱(株)九州支店(現日立グローバルライフソリューションズ(株))の事務所の一角を借り活動を開始いたしました。支部開設としては東京に続き2番目で現在43年を迎えています。これは親切会4代目会長の馬場兵吉氏が(株)日立製作所九州営業所の所長をされたこともあり、九州に対し強力な指導力があつたものと思われまふ。(株)正興電機製作所様はじめ(株)日立製作所・日立グループを中心として法人会員99社、個人会員も300名を超えていたようです。

歴代の支部長は次の通りです。(敬称略)

初代	1982 (昭57)	西川義雄	日立冷熱(株)
二代	1988 (昭63)	土屋正直	(株)正興電機製作所
三代	1995 (平7)	高原登喜夫	(株)日立製作所社友
四代	2003 (平15)	河野通宏	(株)日立製作所社友
五代	2006 (平18)	田中繁次	(株)日立製作所社友
六代	2015 (平27)	現在	山口新太郎

九州支部の発足時の特徴は(株)日立製作所のOBではなくグループ会社の代表が支部長を担当され、取引先も含めて熱心

小さな親切とささやかな福祉貢献で 明るい思いやりのある世の中を

親切会九州支部 支部長

山口 新太郎



に取り組んでおられ、会員数も現在の倍以上でした。

1996年(平8)百道浜に日立九州ビルの完成に伴い親切会九州支部も移転し、日立製作所総務部の支援をいただきながら活動を続けております。専任の事務局長を社友の桃田様にお願ひしております。2015年田中様が退任されるタイミングで2019年、親切会設立60周年の節目に一般社団法人親切会が発足致しました。社会的にも広く認知されるようになり、組織ならびに活動の継続性が担保されたと考えております。

これまで親切会の活動は、(株)日立製作所様ならびにグループ会社様の社会貢献活動の一助となつていと自負しており、その活動を支援する意識で取り組んでおりましたが、独立した組織として独自の責任での活動の位置づけになりましたが、同じ意識でボランティア活動を続けていきたいと考えております。

九州支部の活動は社会福祉貢献団体への寄付・寄贈と善行者表彰ですが、法人・個人会員様の推薦で、一年間に10件強、善行者表彰は1〜2件を実施しております。具体的な取り組みは、次の通りです。

九州補助大協会様には長年にわたり介助犬育成費用として寄付を続けており、

障がいのある方の日常生活をサポートし、また九州盲導犬協会様にも盲導犬育成費として支援を続けております。それから児童福祉施設や乳児院それに特別養護老人ホームへの冷蔵庫や洗濯機等を寄贈し、日立製の家電品に囲まれた生活を支援しております。

最近では子どもへの貧困対策として子ども食堂へのお米等の食材や炊飯器等の運営機材を寄贈し、未来を創る子どもたちへの支援を続けてまいります。最近頻発する地震や水害等の自然災害被災地への義援金の寄贈にも取り組んでおり、熊本地震や九州北部豪雨災害においては本部や全国支部から支援をいただき、岩手県の岩泉町の水害、能登半島地震についても担当支部と連携して対応しております。

善行者表彰は病気の子どもたちのウィッグ作成の為にヘアードネーションをされた方、校区の花壇に花を植え、地域の美化活動に取り組まれた団体等を表彰させていただいております。

歳末助け合い募金については、毎年法人会員様等を個別に訪問し、お願いをし、善意の多額の募金をいただいております、心から感謝申し上げます。

世界は今やロシアのウクライナ侵攻をはじめ悲惨な紛争が続いております。弱者に対してより厳しい訓練が課されているように思われます。一人一人がお互いに気にかけて、思いやりのある、そして支え合う社会が今こそ大事ではないかと考えます。国連が採択した国際目標SDGs・持続可能な開発目標は親切会の活動そのものだと考えております。「小さな親切一つずつでも日々これを実行する」ということが、本当の親切会の会員であるとおもいます。(馬場兵吉様の言葉)を胸に活動を続けたいと考えております。終戦より80年、戦争のない幸せな日本です。引き続きご支援とご協力をお願いします。

株式会社正興電機製作所 社会貢献の取り組みについて 「まちにわプロジェクト福岡」

(株)正興電機製作所 代表取締役社長

添田 英俊



親切会の趣旨に賛同し、正興グループで法人3社、個人会員28名が加入させていただいております。当社は、親切会九州支部設立当初からかわりを持たせていただいております。当社四代目社長 故 土屋正直は、特に親切会の活動に熱心に参画し、二代目親切会九州支部長を歴任させていただきました。その諸先輩たちが、創り上げた活動は、現在も引き継がれ、さまざまな社会貢献活動を継続しております。今回はその社会貢献活動の取り組みの一環をご紹介します。

2021年度に創立100周年を迎えた当社では、福岡市が取り組んでいる「一人一花推進運動」に賛同し、自治体や地元地域、市民、企業関係者への日頃の感謝を込めて、本社に隣接する公共緑地に花時計と花壇を取り入れた緑地修景整備を記念事業として行いました。

地域からの参加ニーズをくみ取り、福岡市「一人一花推進運動」がめざす産官学民の連携による



継続的な花とみどりの街づくり運営ができる仕組みを実現いたしました。

また、福岡市の公共緑地を民間企業が整備管理を行うにあたり、「まちにわプロジェクト福岡」を設立いたしました。「まちにわプロジェクト福岡」とは

1. 「まち」の庭

公共の緑が比較的少ないエリアを対象に、みんなで楽しく協力して花とみどり豊かな空間を創出します。

2. 「ひと」の輪

協力して花とみどりを育む共同作業を通じて、新たな仲間やコミュニティとの出会いの機会を提供します。

3. 「とき」の連鎖

花とみどりを維持管理する技術に触れながら、次世代へ継承していくべき環境について考えて行動する勇気を醸成します。

「まちにわプロジェクト福岡」が、めざす姿は、地



域と企業が「つながる」↓パトナーシップを「育てる」↓活動が「広がる、継続する」をめざし、持続可能な社会（SDGs）のゴールへ向かいます。

活動の体制は、企業、ランドスケープ専門家、専門大学、学生、地域ボランティア、福岡市一人一花推進課の産官学民が協力した体制を構築しております。

活動は、年3回の花の植え替え、宿根草の手入れ、畑の整備を実施しており、毎回100名近くの方々に参加いただき、ワークショップなどを開催し、楽しく活動しております。

夜は、ライトアップされ、地域の憩いの場として、また街の防犯効果として一役を買っています。昨年末からは、クリスマスアドベントに合わせてまちにわにある大きな銀杏の木のリフトアップを始め、通りすがりの方々、車窓の景色を賑やかせています。

また、来年3月には福岡市でフラワーショーが開催されることとが決定し、その時期に合わせて通常の花時計、花壇の賑わいに加え、特別花装飾も実施いたしますので、皆様もぜひ楽しんでいただければと思います。





善行者表彰は、第4

代親切会馬場会長が、身近な親切的な行いを幅広く人に浸透させるために1973年に制定され、今日に至っています。52年間の間、コロナの中、一時、中断はありましたが、毎年10件近くの応募があり、累計で500件近くが表彰されています。その中でも地域貢献や青少年育成が半数以上を占めています。

2024年度は東北支部、中部支部他5件を表彰させて頂きました。

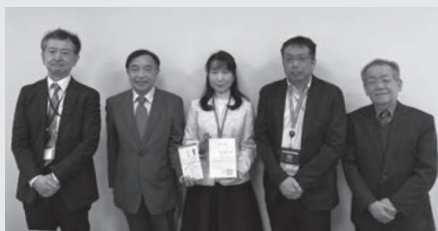
.....

東北支部

林 まゆみ様

東北支部では、この度、(株)日立情報通信エンジニアリング 北日本支店 林 まゆみ様に対して、善行者表彰を行いました。林さんは、

2011年東日本大震災以降、福島市に移住されてこられた方の心のケアを行うため、2014年から仲間と共に活動を開始され、2017年にはボランティア団体「メンタル



ケア・みんなのカフェ」を設立されました。以降、現在まで同団体の中心的メンバーとして「福島心の復興」に貢献されてきました。林さんは、「心理カウンセラー」「同行援護従事者」の資格を取得され、今後も継続して活動していかれるとのことです。

中部支部

坂口 武様

中部支部では、この度、66歳で会社退職後に地元岐阜県可児市で、長年にわたる地域に貢献されてきた坂口 武様に対して、善行者表彰を実施しました。

坂口さんは、2012年地元の高齢者福祉連合会のモデル事業である「買い物移動支援サービス アッシーくん」に計画段階から参画し、

2013年運行から今日に至るまで年間4、500人の高齢者が利用する地域に欠かせぬサービスに発展させてきました。坂口さんは、運転手17名、添乗員19名のボラ



ンティア仲間の調整や運転継続のために諸経費をやり繰りするなどきめ細かい業務をこなしながら、運転ボランティアも務めてきました。

85歳を迎えた現在でもアッシーくんの添乗ボランティアとふれあい支援事業の事務局員を担当され、次世代の地域のキーパーソン育成に取り組んでおられます。

中国支部

日立のぞみ会様

中国支部では、この度、日立笠戸事業所のOBで構成された、理科ボランティア活動を中心とする団体「日立のぞみ会」に対して、2025年2月14日に善行者表彰を行いました。

平成23年に設立され、山口県教育委員会の認定を受けて、150名の会員と49名の理科ボランティアのメンバーが、地域の子ども達、小学校を中心に、理科授業支援、ものづくり工作教室、プログラミング教室、プロダクトミニング教室、笠戸事業所の見学支援等幅広く活動されています。小学校の実験支援では、理科ボランティアのメ



ンバーが中心的役割を担っており、支援なしでは授業が回らない程だと伺いました。児童から感謝の言葉が多く寄せられているとのことです。

日立の技術者OBが地域の児童に理科の面白さを伝えていくボランティア活動に敬意を感じ表彰させていただきました。

九州支部

新原 美恵様

九州支部では、この度、フラワーメイッ代表 新原 美恵様に対して、善行者表彰を実施しました。新原様は、福岡県城南区の七隈校区で2007年、当時、小学生から「花いっぱい」の七隈になったらしいなあ」との声に応え、お花好きの有志の方と共に、七隈小学校の歩道沿いにある花壇に花を植え始めたのがきっかけで以来18年になります。今では、登下校の子どもたちや地域の皆様から「お花がきれいですね」「いつもありがとうございます」との声に元気をいただき、花壇の手入れを行っているとのこと。



（株）日立ソリューションズ殿による 災害備蓄品の子ども食堂への寄贈

親切会 関東・北陸支部

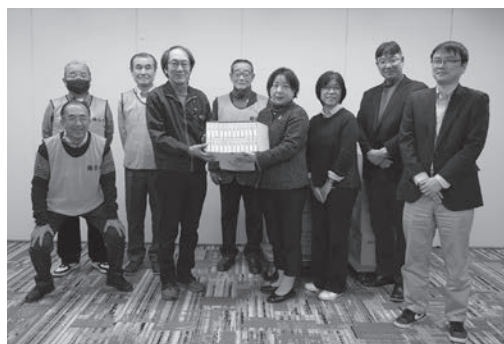
親切会 関東・北陸支部では、2022年から連合東京傘下の「子ども・若者支援プラットフォーム（愛称HOPE・ほっぺ）」が行っている災害備蓄品の子ども食堂への提供に、日立グループ各社の参加を呼び掛けています。（詳細は、親切だより2025年1月号に記載）

今回は、（株）日立ソリューションズ殿に賛同いただくことになり、1月には第一弾として「フリーズドライビスケット」55箱、また、5月には第二弾として「そのままご飯」120箱（30箱×4種類）を寄贈いただきました。（株）日立ソリューションズ本社ビルで、半田常務執行役員殿（1月）、林副本部長殿（5月）、連合東京／斉藤会長殿、HOPE／真島事務局長殿、親切会関東・北陸支部／城副支部長（1月）、森幹事（5月）の立ち合いの下、引き渡し式が行われました。いただいた食品は、HOPEより都内の子ども食堂に送られ、さまざまなイベントの際に必要とする皆様へ配布されるということです。

現在、物価高に加え、コメ不足もあり、災害備蓄品は貴重な資源として活用されているということです。

親切会では、今後も継続してこの支援の輪に加わっていきたいと考えています。会員各社の皆様のご協力をぜひお願いいたします。

トピックス
Topics



支部長退任あいさつ

前北海道支部長

青田 稔



2015年支部長を拝命し丸10年、支部の常任幹事および事務局の皆さん方に支えられながら親切の輪を少しでも広めようと努めて参りました。中でも毎年恒例の「札幌市円山動物園清掃ボランティア」は、北海道在住の日立グループ環境保全活動と一体になり、参加者300名を超える一大行事となりました。また、動物園に昨年オープンした「オランウータンとボルネオの森」には、親切会として記念植樹したイチイの木が植えられています。

今後とも「小さな親切」「ささやかな福祉貢献」モットーに親切の輪が大きくならんことを祈念いたします。長い間ありがとうございました。



新任の挨拶／親切会

北海道支部長

松島 進



このたび、親切会の支部長として10年余りの間ご尽力された青田 稔氏の後を引き継ぐことになりました北海道支部長松島 進と申します。

親切会の歴史も六十有余年になるとお聞きしました。「世の中はお互いに助け合いであり、相手の立場に立って感謝の気持ちを持つことが親切の基本」との創立時の志をこの混とした時代に即した形で展開していくことが大事だと思います。「小さな親切」と「ささやかな福祉貢献」の二つの手法に加え、ボランティア活動など、日本が国際化していく中で心温かい住みやすい日本にしていこうことに少しでも役立つように皆様と共に尽力して参りたいと思います。

私事で恐縮ですが、昭和54年に（株）日立製作所日立工場に入社し、その後様々なご縁で本社営業部本部、横浜支社そして北海道支社から現在の（株）北海道日立システムズに移り6年間お世話になりました。

そのような私が親切会の一員として貢献させていただけることは、望外の喜びです。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



シリーズ.. 親切会を訪ねて

親切会と3人の馬場さん

一般社団法人親切会 本部

米山 貴章

親切会と日立との関係を紐解くと3人馬場さんの存在を知ることができま

す。

まず、一人目の馬場さんは、馬場 糸夫さんです。言うまでもなく、日立創業を支えたおひとりです。のちの中央研究所となる研究部門を統率され、「技術の日立」の礎を築かれました。また、後年は、「落穂拾い」として、現場を廻られ、「信頼の日立」を築き上げられました。実は、糸夫さんは、1959年親切会創設時の名誉顧問に就任され、親切会の広報誌「親切のつどい」（のちの親切だより）に計33回も寄稿いただくなど、親切会会員の精神的支柱になった方でもあります。

親切会への思いを1969年「親切のつどい」に寄稿されていますので、一部ご紹介させていただきます。

「私は若い時から全国の観音様百か所を三辺近く回りました。この結果、観音様の教えと言うのは、煎じ詰めれば向こうの立場になると言うことだと

知ったのであります。これを仕事の上に応用すると使う人の側に立って機械と製品を見るところであると感じ、そこで油挿し行脚を始めたのであります。今親切会の趣旨や行き方を眺めますとその精神に於いて非常に近い、いや全く同じものを感じるのです。あります。（中略）親切会の仕事は、自己のみならず社会全体の繁栄、終局は世界平和につながるものであります。私は、このような本会の一員に加わっていることを非常な誇りと致しております。」

二人目は、馬場 李太郎さんです。この方は、実は、糸夫さんの令弟に当たられる方です。糸夫さんが、馬場家に養子となり、その後、李太郎さんが誕生するのですが、糸夫さんは、馬場家から養育いただいた恩顧に報いるため、馬場家に残られました。李太郎さんは、親切会創設以来、1988年に死去されるまでの30年近くを事務局長

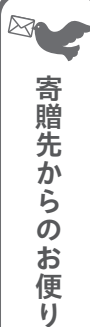
として、親切会のまさに屋台骨として支えられた方です。「親切のつどい」発行編集人の他、ご自身でも寄稿され、その回数は実に239回にも上っています。馬場 兵吉さんが、会長になっています。会長と共に数多くの講演会にも参加されています。

三人目は、馬場 兵吉さんです。中国旅順の学校を卒業された後に(株)日立製作所に入社され、戦時中は、インドネシア・ジャワ島の工場を任され、戦後、帰国するまでの間大変なご苦労をされました。戦後、大阪や九州の営業所長となり、その後、日立機電工業(株)の分離独立に尽力され、それから、8年間社長として日立機電工業(株)の発展に努められてきました。兵吉さんは、尼崎で勤務していたころ、深田 昌三氏（当時、第一銀行大阪新町支店長）より親切会設立の話聞き、大いに感銘を受け、すぐに評議員になることに応諾し、さらに日立からは、馬場 糸夫顧問、駒井相談役、吉山専務にも親切会の名誉顧問になっていただいています。1968年に親切会の財政危機の際には、第4代親切会会長として、会に専念されることを決意され、それから1990年に死去されるまでの間、親切会の復興にご尽力されました。就任時に語られた言葉を一部抜粋させていただきます。

「私が、今後実行したいことは会員を多数集めて、その会員が親切会の会員であるという精神をもって、毎日、自分自身が親切を実行していく点にあります。小さな親切一つずつでも日々これを実行するというのが、本当の親切会の会員であると思います。」

1970年には、善行者表彰制度を作り、親切を幅広い人に浸透させ、今日まで、親切会の主要なイベントの一つになっています。また、1973年には、日立機電工業(株)の後任である網盛氏（のちに日立工機(株)社長）と共に東京支部を創設し、日立からは、在京の5工場、中研、日立グループおよび関連会社21社が会員となり、親切会と日立との関係を決定付けました。その後、1986年に北海道支部が設立するまでの間に、(株)日立製作所9支社にそれぞれ親切会の支部を設置し、現在の形になっています。

今回、3人の馬場さんを通して、日立と親切会との関係をみてきました。3人のご尽力は言うまでもありませんが、日立の中にも親切会の精神と合重なるものがあつたのではないのでしょうか？ それは、当時の日立の企業広告「企業にとって「親切」とは…日立は「まこと」だと考えます。」の中にも表れているのではないのでしょうか？



寄贈先からのお便り

①九州支部

社会福祉法人 あすなる学園

理事長 大友 征子様

過日は、遠路北九州郊外の平尾台麓にあります「あすなる学園」に、親切会様にこ来園いただき、(株)九州日立システムズ様のご推薦により、保健衛生環境に効果のある除湿器をご寄贈くださいまして、誠にありがとうございます。当法人の5つの事業所には220余名の利用者の方たちが生活しており、安全な生活環境のサービスが必須です。で、親切会の皆様の温かい心のこもった除湿器を有意義に活用させていただきます。



②関東・北陸支部

社会福祉法人 仁愛会

特別養護老人ホーム 松原サナホーム

施設長 斎藤 裕様

この度は、自動ブレーキ付き車いすをご寄贈いただき、誠にありがとうございました。いただいた車いすについては、最近の入居者で自動ブレーキがついていないと怪我の恐れがある方に使わせていただいております。おかげ様で転倒などの事故がなく生活できております。その為、職員も日常の介護業務に安心して携わることができております。特養において認知力が低下しているお年寄りが多く、職員の見守りや、センサー、カメラの使用やその他環境整備だけでは事故は防ぎきれない中、とてもありがたいです。

2024年歳末募金ご協力

ありがとうございます。

親切会本部

昨年末に行いました歳末募金は、おかげさまで、昨年とほぼ同額3,500,000円を集めることができました。社員食堂等の減少やキャッシュレス化が進む中、大幅な減額が危惧されましたが、会員の皆さまのご支援によるものと感謝いたしております。

なお、いただきました善意は、各支部でそれぞれの施設に寄付させていただいております。各支部での募金結果や寄付先についての詳細は、適宜、親切会HPに掲載しておりますので、ご確認願います。

北陸支部の関東支部への統合のお知らせ

本年4月1日を持ちまして、北陸支部は関東支部と統合となり、関東・北陸支部となりました。旧北陸支部長の藤原様には、引き続き関東・北陸支部の幹事としてご協力いただくこととなります。引き続き、親切会をよろしくお願いいたします。

人事異動の件

6月20日社員総会により、法人理事のうち、(株)日立製作所 古田様、水出様、竹内様、高野様が退任され、新たに筒井様(営統括人事総務本部)、徳重様(総務・CRE統括部)、松永様(人事労本部)が就任されました。また、人事異動により(株)日立ハイテクは桜井様、(株)日立マネジメントパートナーは越川様が就任されました。北海道支部は青田支部長が退任され、松島様が新支部長になりました。

新本部体制(2025年6月20日)

代表理事

元(株)日立ライフ取締役社長

元(株)日立製作所社会・産業インフラシステム社長

業務執行理事

本部長

北海道支部長

東北支部長

関東・北陸支部長

関東・北陸副支部長

中部支部長

関西支部長

中国支部長

四国支部長

九州支部長

理事

(株)日立製作所

(株)日立製作所

(株)日立製作所

(株)日立ビルシステム

(株)日立システムズ

(株)日立ソリューションズ

(株)日立ハイテク

(株)日立保険サービス

(株)日立リアルエステートパートナーズ

(株)日立マネジメントパートナー

社員会員

北海道支部

東北支部

北陸支部

中部支部

関西支部

中国支部

四国支部

九州支部

監事

元(株)日立マクセル

元(株)日立ハイテクノロジーズ取締役会長

名誉会長

(株)日立製作所OB

(株)日立製作所OB

(株)日立製作所OB

加子 茂

鈴木 学

米山 貴章

松島 進

稲田 久生

鈴木 学

城 利一

宮部 龍二

朝野 順男

加藤 恵一

有木 美雄

山口 新太郎

筒井 亮太

徳重 安謙

松永 恭興

山内 一生

平岡 真一

半田 浩晃

桜井 洋輔

中村 宏二郎

神宮 純緒

越川 立也

葛輪 正樹

西山 重憲

福田 哲夫

湯次 善磨

堀内 浩裕

廣田 英城

海藤 賢一

山本 真司

鈴木 健二

森 和廣

岡田 政紀

井草 剛仁

「親切会は、「小さな親切」「ささやかな福祉事業」をモットーに明るく思いやりのある世の中をめざした活動を続けています。

私たちは、さまざまな災害の度に、自分一人だけでなく、多くの人たちの絆や連携の尊さを感じています。日々の生活の中にも人から小さな親切を受け、自分もまた他人の人に相手の立場にたって考えた上で小さな親切を渡してゆく。そのような小さな親切が発端となって、さざ波になって世の中に広がっていくことをめざしています。」

親切会は、日立と共に
社会貢献活動を行っています

親切会本部・関東・北陸支部
〒101-0032
東京都千代田区岩本町2-9-6
ゆいぽーるひたち4F
電話070-3603-2172
振替口座00100-1-77291
三菱UFJ銀行神田支店
普通口座番号0530726

北海道支部
〒060-0002
札幌市中央区北2条西4丁目1番地
札幌三井JPビルディング
株日立製作所北海道支社内
電話011-221-3444
振替口座02270-4-144523
普通口座番号8721350

東北支部
〒980-0811
仙台市青葉区一番町4-1-25
(JRE東二番丁スクエア)
株日立製作所東北支社内
電話022-223-0121
振替口座02270-4-144523
七十七銀行本店営業部
普通口座番号7838603

中部支部
〒460-8435
名古屋市中区栄3-17-12
(大津通電気ビル)
株日立製作所中部支社内
電話052-259-1133
振替口座00800-8-137771
三菱UFJ銀行栄町支店
普通口座番号0265752

関西支部
〒530-0004
大阪市北区堂島浜1-2-1
新ダイビル9階
電話・FAX06-6341-6770
振替口座01140-2-41408
山口銀行大阪営業部
普通口座番号3617060

中国支部
〒730-0036
広島市中区袋町5-25
(広島袋町ビル)
株日立製作所中国支社内
電話082-541-4111
山口銀行広島支店
普通口座番号6267593

四国支部
〒760-0027
高松市紺屋町9-6
(高松大同生命ビル4階)
株日立製作所四国支社内
電話087-802-4340
振替口座01700-3-9484
百十四銀行田町支店
普通口座番号0314049

九州支部
〒810-0001
福岡市中央区天神1-11-1
ONE FUKUOKA BLG.15F
電話080-8649-5149
振替口座01700-3-9484
西日本シティ銀行シーサイドももち出張所
普通口座番号3024435